

2006.07.21：経済環境協議会

「仙台ナンバーについて」

池田友信委員

この際お伺いしたいと思いますが、実は仙台ナンバーの件です。仙台ナンバー、おかげさまで議会に上げて、私が一応議連の代表にさせていただいておりますが、仙台市当局も含めて全市を挙げて取り組んだ結果、10月10日にナンバーが発行されるということが決定をされました。本日発行に当たって、ナンバーには新車だけじゃなくて中古車を含めて現在持っている車も交換できる、可能になったという形でございます。

御案内のとおりこの仙台ナンバーは、当局としては企画局が一応担当しております、これまで取り組んでまいりました。しかし、このナンバーの目的、仙台市としての要望の大きな目的の中にはシティセールスということが要望の中にあって、仙台市のシティセールスのためにこのナンバーが欲しいんだと、こういう強い要望が実ったものと思っております。したがって経済局がそのシティセールスの所管の部局でありますから、企画局と連携をして今後のそういう部分の仙台ナンバーに対する発行についていろいろ計画なりあるいは考えがあるかどうか、その辺をちょっとお伺いします。

経済局長

ただいま御指摘のありました、いわゆる仙台ナンバー、御当地ナンバーと言われているところのものでございますが、全国10数カ所と聞き及んでおりますが、それぞれの地域である種、経済的に文化的にまとまりのある地域につきましてそういったナンバーを発行して、一つの地域のブランドといいますか、地域をシティセールスとして売り出していこうという取り組みの一環として進んだわけでありまして、大変仙台という一つの地域のまとまりのあるところでこういったものが発行されることは、極めて大変先生方の御尽力の結果でありまして、ありがたいことというふうに思っております。

本件について、いわゆるそのシティセールスの中の一環としてどのように活用していくのかということにつきましては、今のところまだ特段の検討はしておりませんが、御指摘の点を踏まえ企画局の方とも相談しながら仙台の知名度を上げるという観点で、どういうふうにそのナンバーを活用することができるのかということについては検討してまいりたいと思っておりますし、また御相談もしていきたいと考えております。

池田友信委員

企画局の役割として私の判断、解釈は新しい制度をつくっていくための企画を担当するとういう部分でありまして、そういう意味では10月10日をもって企画局の役割というような形がどういふふうになるのか、それが一つと、シティセールスというのは強い要請をしたその目的の中では、経済局が常に仙台市のシティセールスのためにいろんな政策制度なり、あるいは法の改正なり、そういうことをやはり考えながら実現の運びにはこういうことをしていきたいと、こういうシティセールスがあるべきだと、こういうことを本来考えていかなきゃないんじゃないかなというふうに思います。

歴代の市長で、これ実は私も27年議員をやっておりますが、この仙台ナンバーの件については20年かかりました。もう凝りもせず。4代の市長にいろんな形でこの実現のために取り組んでまいりました結果、藤井前市長が具体的な第2弾の大きなアクションを起こして実現の方向になったわけですね。その前は石井さん、島野さんの時代はあんまり動きませんでしたね。具体的にはね。石井市長のときに実はこれは仙台に大変重要なことだということであったのですが、御案内のとおり断念せざるを得ないああいう御事情がありまして途中で切りましたが、藤井さんが市長になった時点で、これは再交渉しなきゃないと、こういうことで取り組んだ結果、藤井さんの任期間際でこれで議会の代表も含めていろいろ取り組んだ結果、実現したものというふうに思っています。

その中でやはり前回と今まで変わったのは、法律が変わったわけですね。これは地域からの要請によって国の制度を変えて、国が大枚な費用をかけてナンバーを設置するための新しいことをするためのシステムとか何かを、これは貴重な相当な費用がかかっているわけですね。したがって国の方では、私たち陳情に行ったときに言われたのは、せっかくやるのですからぜひ仙台さんは断トツの形の条件整備をされて今回の地域ナンバー、御当地ナンバーで地域おこし、したがってこのナンバーを機にぜひ仙台市さん活性化になってほしいと、こういう願いを込めていますよということですから、したがって要望も我々仙台市挙げて仙台市のシティセールスのためにという形の要請ですから、したがってそれは所管として経済局の方も、これをいい機会をいただいた、いい一つのアクションの起爆剤をいただいたということを考えると、これを機会にシティセールスの方法なりアクションを何らかの形で企画をし、考えていくことが必要ではないのかなというふうに思っておるんです。19日に推進協議会の総会を開いて、今まで役員も藤井さんの会長で終わっていましたが、今度、梅原市長で会長に就任していただいて、新しい体制でスタートしましたし、本日10時半から議連の方でも推進の報告会を、総会を開いて活動報告をしましたが、今後の中では、じゃあどんなことをするのかということ、企画局の所管の時

代からやっぱりこれから経済局も入って、そういう形で動かないといけないのではないかなと。

先ほどの七夕の件もありましたけれども、実は商工会議所の方にも話をしていますが、せっかくの機会ですから、これは市民の署名をもって市民全体でこれは実現したんですね。したがって今回はそれを受けての報告とありがとうという感謝の姿勢も含めて、やっぱり例えば七夕の中には織り込んでもらうように商工会議所と今調整しておりますけれども、経済局としてぜひこれをいろんな場を機会を通じて、仙台ナンバーを一つのまちおこしという形で取り組んでいただきたい。取り組むべきだと思うんですね。東北で2カ所です。仙台と会津で。会津は今そのナンバーをもらったということで、1市でなりませんから、12市町村くらいありますのでね、これで町をおこそうと、こういう動きで市当局、議会を挙げてそれぞれの議会を含めて会津というブランドをひとつ売り込もうと、こういう形で非常に動いております。これは企画局の担当だというのではなくて、やはり仙台市全体を挙げてやっていくべきだと思っております。

きょうの議員の総会の中でも、せっかく要請したのだから議員さん全員、我々、今、会費出してやっているんですよ。その会費の中で議員さんの皆さんのナンバーをひとつ仙台に着がえるような方向で取り組んでほしいと、こういう話をさせていただきましたが、ぜひそういう部分で、これは仙台ナンバーが多ければ多いほど税金は仙台市に入ってくるのですから、これは大変ありがたいことでありまして、非常にそういう部分ではそれをアピールすることを含めて、経済局のシティセールスという分野を含めて、企画局とタイアップになっていろいろ取り組んでいくことがこれは大変重要だと思うのです。その辺についてのひとつ局長の見解をお伺いします。

経済局長

ただいまの御指摘ですが、非常に大変重要な御指摘でございまして、会津の方ではまちおこしに活用されているというお話も伺いましたので、私どもの方ではどういふところでこの仙台ナンバーを使うことによって、仙台の知名度を上げて域外に対する発信を高めていけるのかについてよく勉強させていただきたいと思っております。

池田友信委員

やる範疇は、これを全市を挙げていろいろ工夫すると考えがいろいろ出てくると思うんですね。当面、例えばバスのラッピングの中には仙台ナンバー実現というラッピングをするのが1台、これを一応考えているようですが、今後の中で企画市民局と経済局がいろんな意味でまちおこしのための、いろんな今後企

画局としてはもう実現したその時点で、その後も企画という形になるのかどうかね、私はそれからもうどっちかというところ経済局がいろいろ主になってこれをいろんな活用の検討をすることが大きな役割になるんだというふうに思いますので、その辺御提言しまして終わりたいと思います。